

輸出事業計画

※申請者名：ホクレン農業協同組合連合会、品目：LL牛乳等

1. 輸出における現状と課題

【現状】

- 香港では価格が多少高くても安全性の高い牛乳を購入する傾向があり、日本製品では北海道産牛乳がブランドとして浸透している。
- 弊会の香港向け輸出においては、2020年は新型コロナウイルス感染拡大に伴う巣ごもり需要により、家庭用向けの販売が大きく伸びたが、一方で業務用向けの取り扱いが減少した。尚、北海道牛乳は製菓・製パンや飲食店など幅広い用途で利用されており、「北海道産牛乳使用」と最終製品の付加価値を高めて販売している。
- フィリピンでは乳製品のほとんどを輸入に依存している。また、チルド流通が整っていないため、常温保存可能なLL牛乳の販売が大半を占めている。

【課題】

- 香港では牛乳類を販売するためにはライセンス登録が必要であり、ライセンス認可が下りるまで1年以上の日数を要する場合がある。新規商品の輸出に関しては時間を要するが、現地ニーズにあった商品の新規導入を目指す。また、既に輸出している北海道牛乳は香港消費者に一定の認知度はあるが、さらなるブランド価値の向上を図る。
- フィリピンでは営業許可を取得しなければならず、営業許可を取得するためには半年程度の日数を要するが、フィリピンでの新規輸出を目指す。

2. 輸出事業計画の取組内容

【香港】

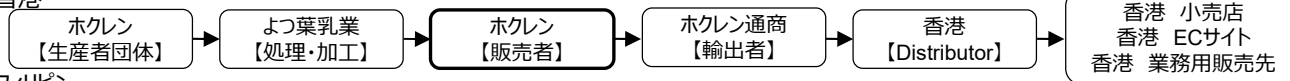
- 現地の取引先と連携して、現地のニーズを探り、品目拡充を図っていく。
- 電車・バスなどのラッピング広告や料理教室、試飲販売などのプロモーションを行い、北海道牛乳のブランド価値を高めていく。

【フィリピン】

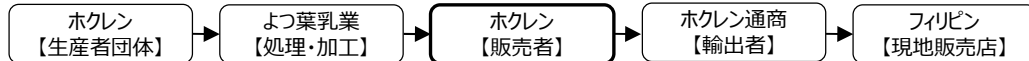
- 営業許可を取得し新規輸出を目指す。

【現在の商流】

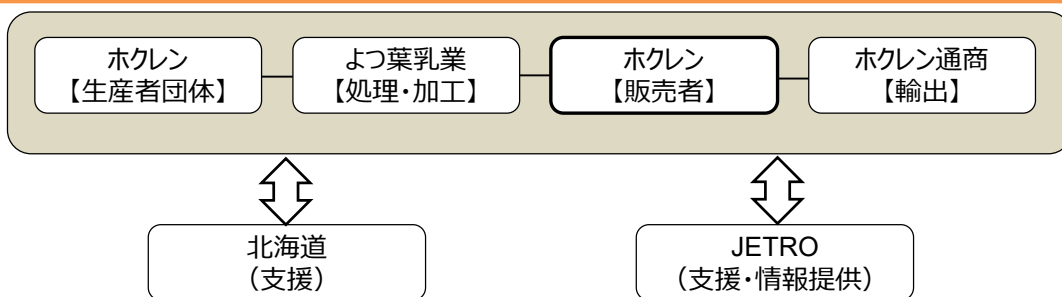
○香港



○フィリピン



3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

	現状（令和2年度）	目標年（令和7年度）
輸出額（円）	785,796,000	814,631,000
輸出量（t）	3,948	4,081
輸出先国	香港	香港・フィリピン